

## EASD2017参加印象記

2017年9月11日～15日  
Lisbon, Portugal

岡崎由希子

Yukiko Okazaki

東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科 助教

### 開催地はポルトガルのリスボン

第53回欧州糖尿病学会学術集会 (EASD2017) は2017年9月11日から15日までポルトガルのリスボンで開催された。今回のEASDでは日本発の2型糖尿病大規模臨床試験であるJ-DOIT3の特別セッションがあり、私もJ-DOIT3研究事務局の一員であるため、格別の思いでリスボンにむかった。リスボンにあるロカ岬はユーラシア大陸最西端の岬であり、ポルトガルの詩人・カモイネスによる叙事詩の一節「ここに地終わり海始まる (Onde a terra acaba e o mar começa)」と書かれた石碑がある。

会場となった“Feira Internacional de Lisboa”はリスボン空港から地下鉄でわずか10分程度しかからないオリエンテ駅から徒歩で行ける大変便利な場所にある。会場前には広大なテージョ川が大西洋を目指してゆったりと流れており、便利さとのどかさが相まった素晴らしい会場であった。連日、透明でつき抜けるような青空であった。

### 活気溢れる会場

今回のEASDでは3つの大規模臨床試験の結果が新たに発表された。 $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害薬・アカルボースの効果をみたACE (Acarbose Cardiovascular Evaluation) 試験, GLP-1受容体作動薬・エキセナチドの心血管への安全性をみたEXSCEL (EXenatide Study

of Cardiovascular Event Lowering) 試験, そして日本のJ-DOIT3 (Japan Diabetes Optimal Integrated Treatment study for 3 Major Risk Factors of Cardiovascular Diseases) である。また、その他にも複数の大規模臨床試験の続報や, East-West Forum (埼玉医科大学の野田光彦教授が発表) も開催され、会場は活気に溢れていた。

### J-DOIT3の発表

9月15日の11時から12時の1時間, Cezanne Hall にJ-DOIT3専用のシンポジウムの際は設けられていた。ここで東京大学の門脇 孝教授, 国立国際医療研究センター糖尿病研究センターの植木浩二郎センター長, 中央大学の橋本靖雄教授がJ-DOIT3の結果を発表し, フィンランドのヘルシンキ大学のPer-Henrik Groop教授がindependent commentator として講評を行った。

J-DOIT3の結果を要約すると, 2型糖尿病患者に対し血糖・血圧・脂質の管理目標値をより厳格に定めた強化治療を行うことで, 主要評価項目である複合心血管イベントの発生率は従来治療に比べ19%抑制され (有意差なし,  $p=0.094$ ), 危険因子で補正するとリスク減少は24%抑制され (有意差あり,  $p=0.042$ ), 脳血管イベントについては58%抑制された ( $p=0.002$ ) というものである。また副次評価項目については, 腎症が32% ( $p<0.0001$ ), 網膜症が14%抑制された ( $p=0.042$ )